

2020年6月30日

「お客さま本位の業務運営に関する取組状況」の公表について

株式会社広島銀行(頭取 部谷 俊雄)では、お客さまの資産形成・運用関連業務における、お客さま本位の業務運営の一層の徹底を図るため、2017年6月に「〈ひろぎん〉のお客さま本位の業務運営の実践に向けた取組方針」を制定し、本方針の取組状況をお客さまに分かりやすくご確認いただけるよう、具体的な指標等を定期的に公表しております。

このたび、2020年3月末時点における「お客さま本位の業務運営に関する取組状況(自主的KPI:8項目及び共通KPI:3項目)」を別紙のとおり公表します。

KPI選定の視点	具体的な指標(KPI)	
<input type="checkbox"/> お客さまの最善の利益の追求 <input checked="" type="checkbox"/> お客さまの視点に立った販売姿勢 <input checked="" type="checkbox"/> 付加価値の高い商品・サービスの提供	(1) 高度な専門性を有する人材の育成	①FP資格保有者数
	(2) お客さまへの情報提供の充実	②お客さま向けセミナー開催回数
	(3) お客さまの資産形成に資するポートフォリオ提案の実践	③投信販売額上位商品 ④投信残高におけるコア商品比率 ⑤毎月分配型以外の投信販売比率
		長期・積立・分散投資の促進
共通KPI※	⑧運用損益別顧客比率 ⑨投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン ⑩投資信託預り残高上位20銘柄のリスク・リターン	
(4) お客さまの運用成果に関する指標		
<input type="checkbox"/> 取組の結果として当行の中長期的な企業価値の増大	(5) お客さま基盤の拡充	⑪金融商品保有者数・残高

※共通KPIは2018年6月に金融庁から公表された「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPIについて」に基づく指標。(KPI:成果指標)

広島銀行は今後も、お客さまの利益を最優先に考え、付加価値の高い商品・サービスの提供に努めてまいります。

【「お客さま本位の業務運営に関する取組状況」について】

https://www.hirogin.co.jp/rules/pdf/kokyaku_honi_kpi.pdf

本件に関するお問い合わせ先
 株式会社広島銀行 アセットマネジメント部
 TEL (082)247-5151(代表)

【お客さま本位の業務運営に関する取組状況】

(1) 高度な専門性を有する人材の育成

■ FP資格保有者数は順調に拡大しており、専門性の高度化に向けた取組みを強化しております。【図1】

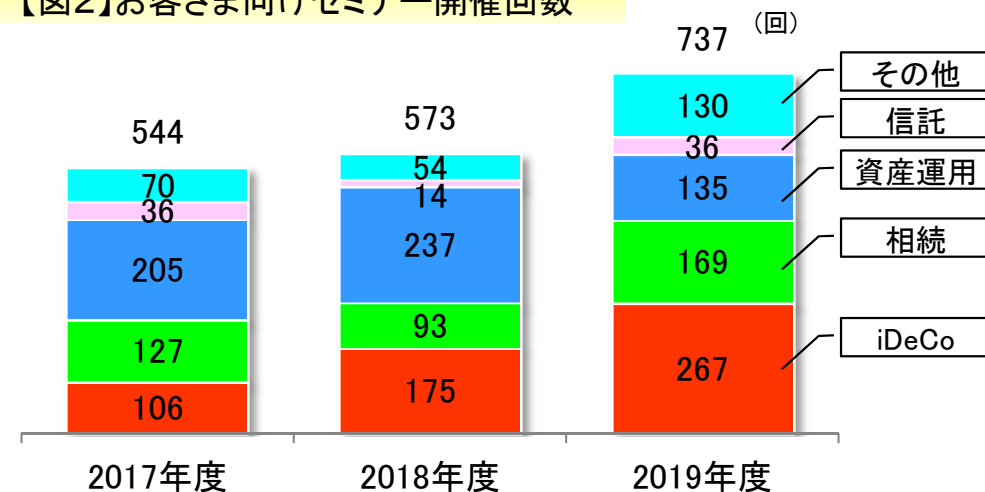
【図1】FP資格取得者数



(2) お客さまへの情報提供の充実

■ iDeCo、相続、資産運用等のお客さまセミナーを積極的に開催し、各種情報提供に努めております。【図2】

【図2】お客さま向けセミナー開催回数



(3) お客さまの資産形成に資するポートフォリオ提案の実践

■ 投信の販売にあたっては、長期保有に適した低リスク型の商品を中心にご提案しており、販売額はバランス型のコア商品が上位を占めております。【図3】

【図3】2019年度投信販売額上位商品(10銘柄)

順位	商品名	商品 カテゴリー	手数料 料率(%)	件数	金額(億円)		コアファンド 区分
					金額	比率	
1	ハイパー・ウェイブ	国内株式	2.20	4,764	53.5	16.2%	サテライト
2	東京海上・円資産バランスファンド(毎月)	バランス	1.65	17,961	52.2	15.8%	コア
3	グローバル3倍3分法ファンド(1年)	バランス	3.30	3,920	42.0	12.7%	コア
4	東京海上・円資産バランスファンド(年1回)	バランス	1.65	6,809	32.8	10.0%	コア
5	日本トレンド・マネーポートフォリオ	国内債券	0.00	944	30.9	9.4%	サテライト
6	日興インデックスファンド225	国内株式	2.20	58,554	27.0	8.2%	サテライト
7	グローバル3倍3分法ファンド(隔月)	バランス	3.30	1,776	24.5	7.4%	コア
8	ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月)	海外株式	3.30	4,039	24.2	7.3%	サテライト
9	リバース・トレンド・オープン	国内株式	2.20	1,678	22.2	6.7%	サテライト
10	【ネット専用】日経225ノーロードオープン	国内株式	0.00	5,312	20.6	6.3%	サテライト
上位商品(10銘柄)合計				105,757	329.9	100.0%	—

〈コア・サテライト商品の定義〉

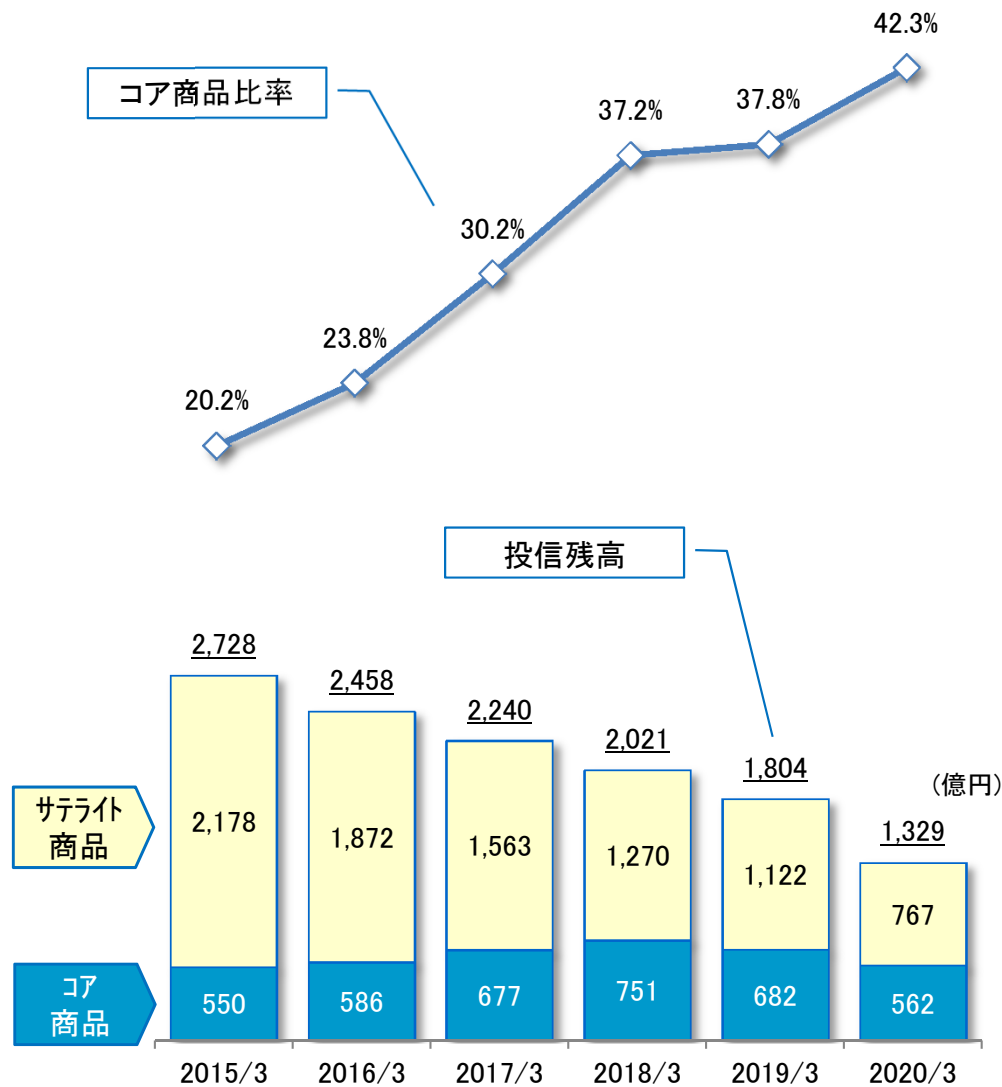
区分	定義(商品性)	商品数
コア	長期保有に適した低リスク型(標準偏差10程度もしくはそれ以下)の商品	30
サテライト	株式等の特定の資産を投資対象とし、ある程度のリスク(標準偏差10以上)を取りつつ、より高い収益を目指す商品	87

※商品数は、窓口取扱の商品(専用商品除く)

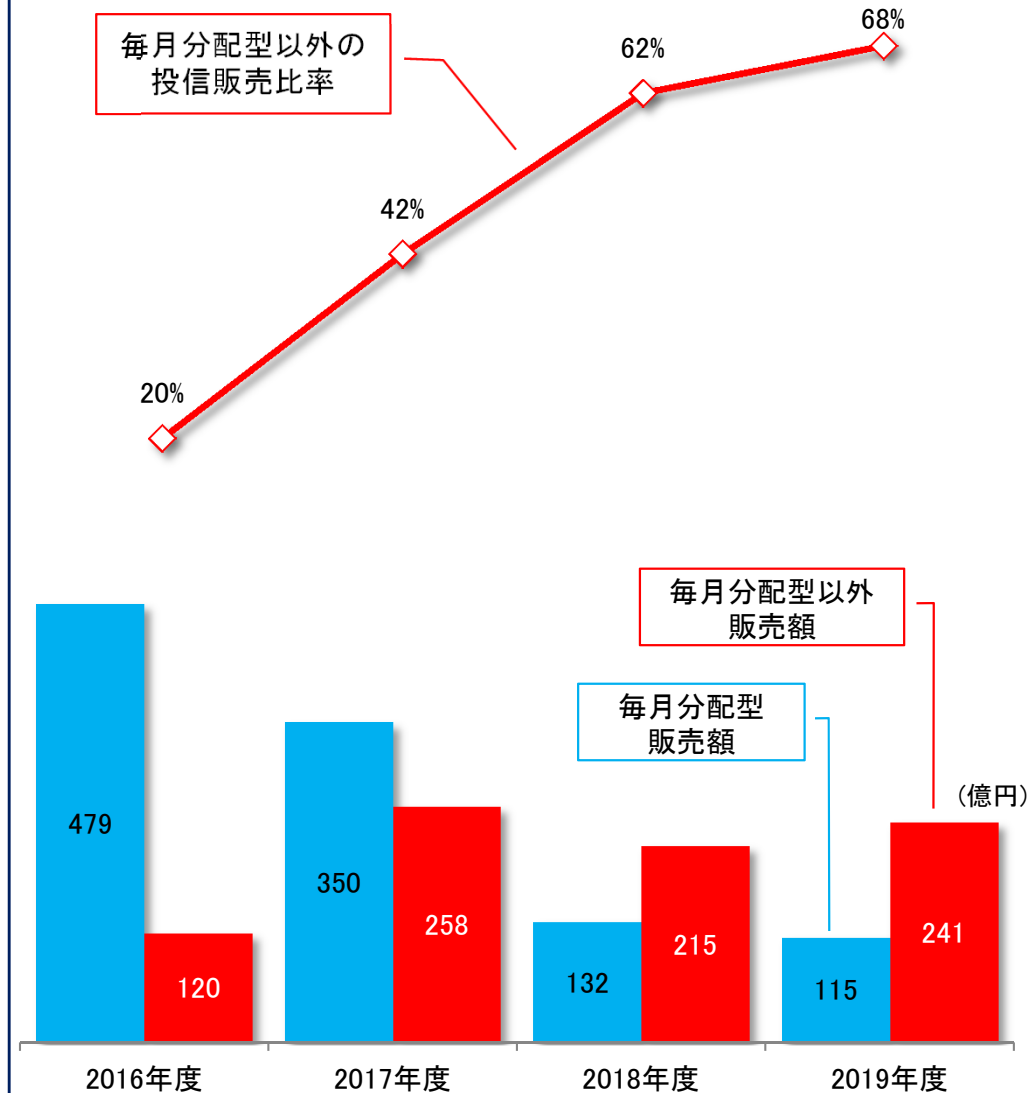
(3)お客さまの資産形成に資するポートフォリオ提案の実践

- 投信残高におけるコア商品残高は横ばいであるものの、コア商品比率については増加しております。【図4】
- お客さまの投資目的やリスク許容度等を踏まえる中、商品のご提案にあたっては、リスクとリターンとの関係や投資信託の複利効果等の説明を丁寧に行っており、毎月分配型以外の投信販売比率は増加基調にあります。【図5】

【図4】投信残高におけるコア商品比率



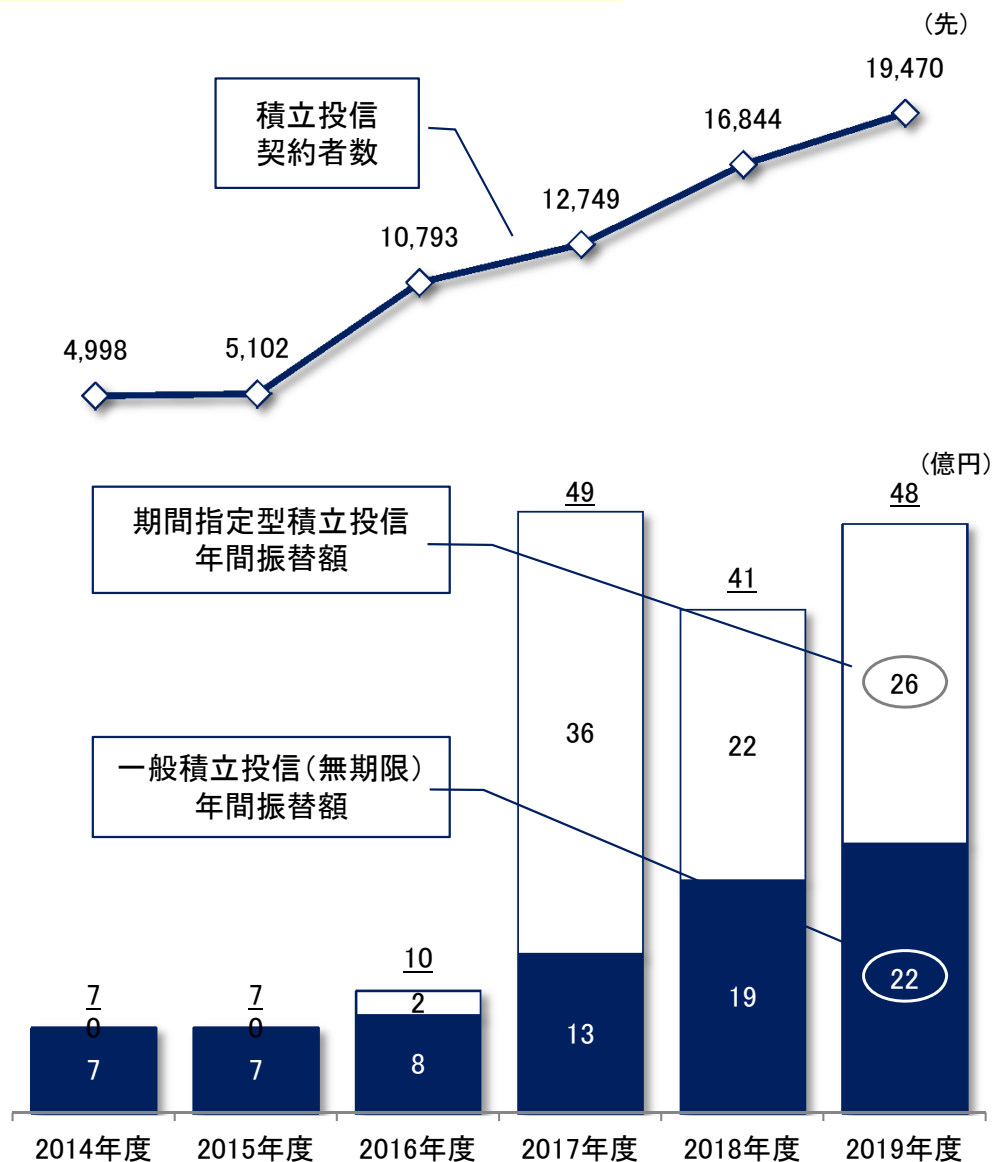
【図5】毎月分配型以外の投信販売比率



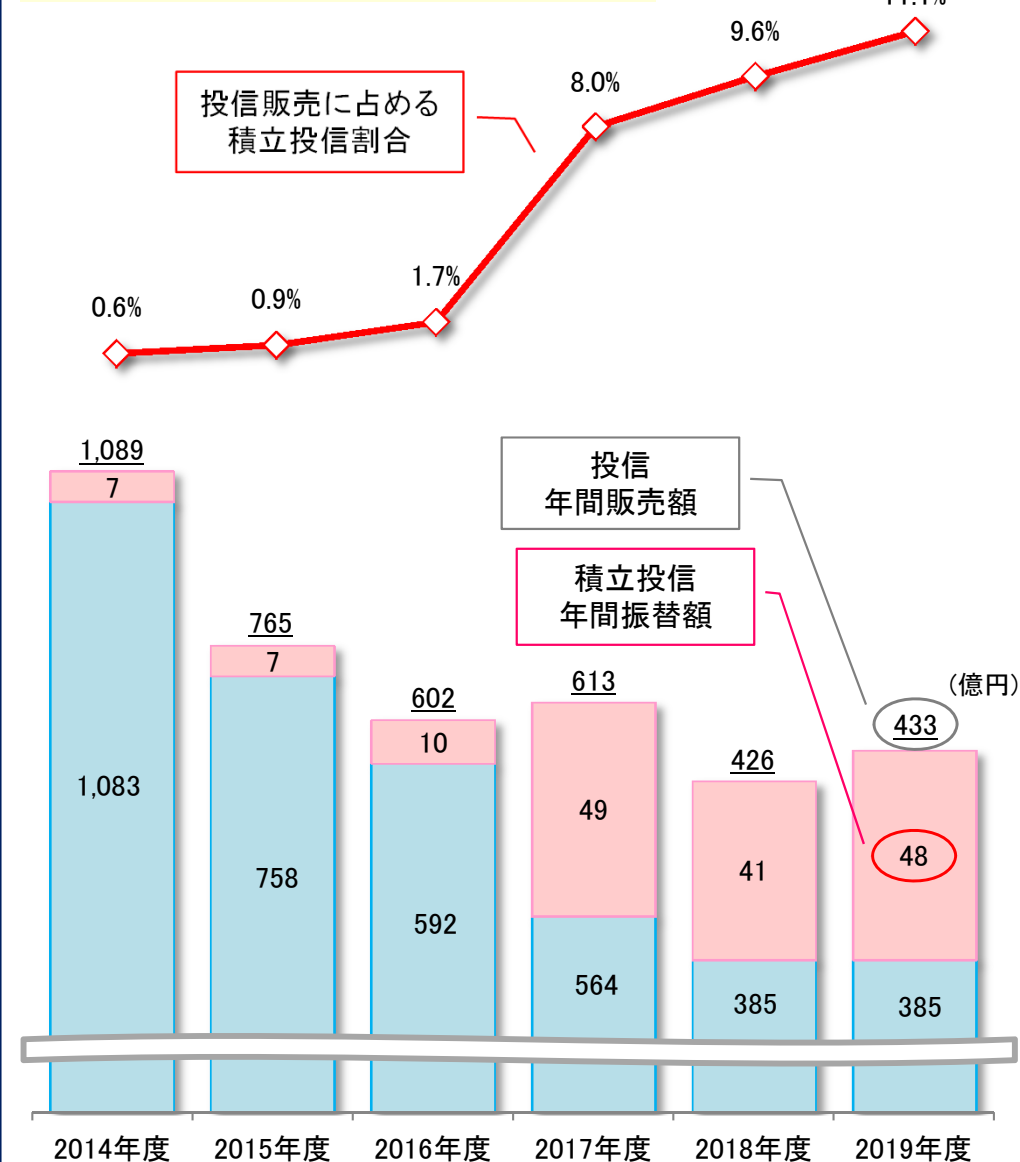
(3)お客さまの資産形成に資するポートフォリオ提案の実践(長期・積立・分散投資の促進)

- 資産形成層への積立投信推進強化により契約者数、一般積立投信(無期限)振替額は着実に増加しております。【図6】
- 投信販売額及び積立投信振替額がともに増加しており、投信販売に占める積立投信割合も上昇しております。【図7】

【図6】積立投信契約者数・振替額



【図7】投信販売に占める積立投信割合

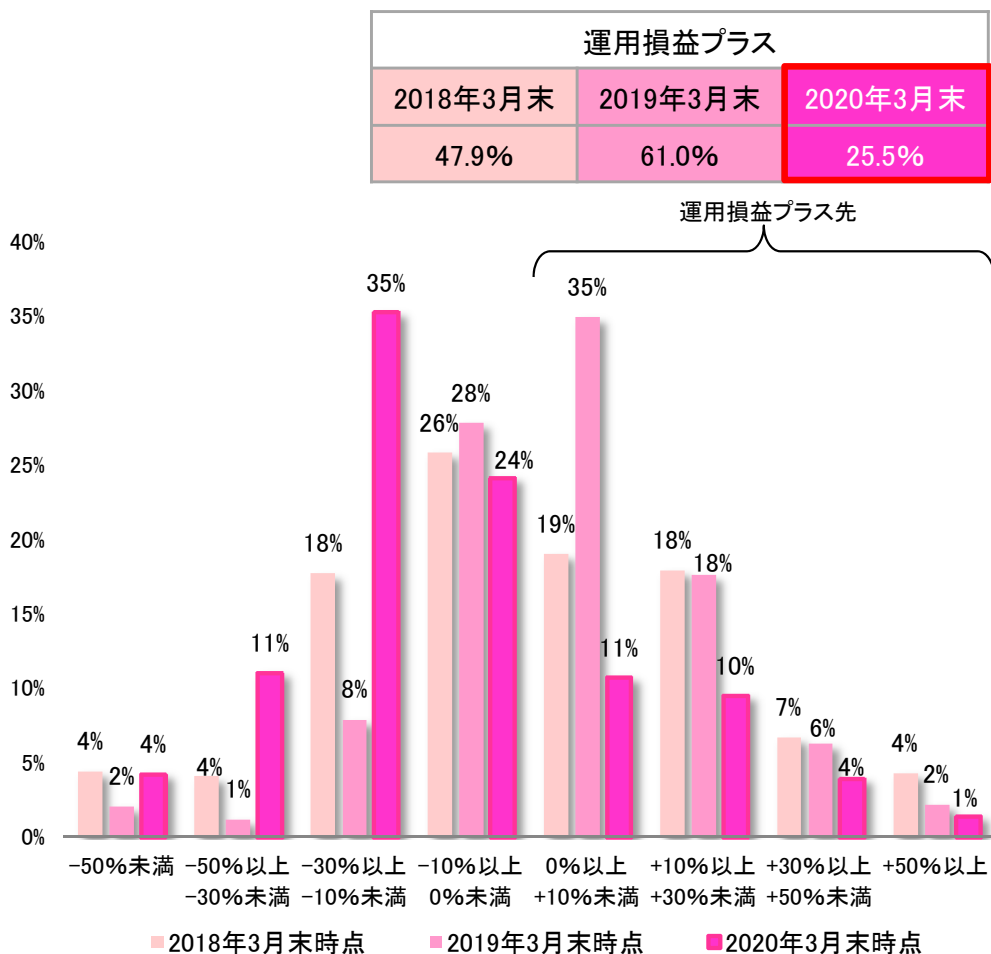


【投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI】

(4)お客さまの運用成果に関する指標

- お客さまにご購入いただいた投資信託の運用損益状況について、損益区分ごとのお客さま割合をお示しております。
- 新型コロナウイルスの影響により株式・REIT(不動産投資信託)等、様々な資産が下落した影響を受け、2020年3月末時点で投資信託を保有中のお客さまのうち、運用損益がプラスのお客さまは全体の25.5%となっております。【図8】

【図8】投資信託運用損益別顧客比率¹ [共通KPI]

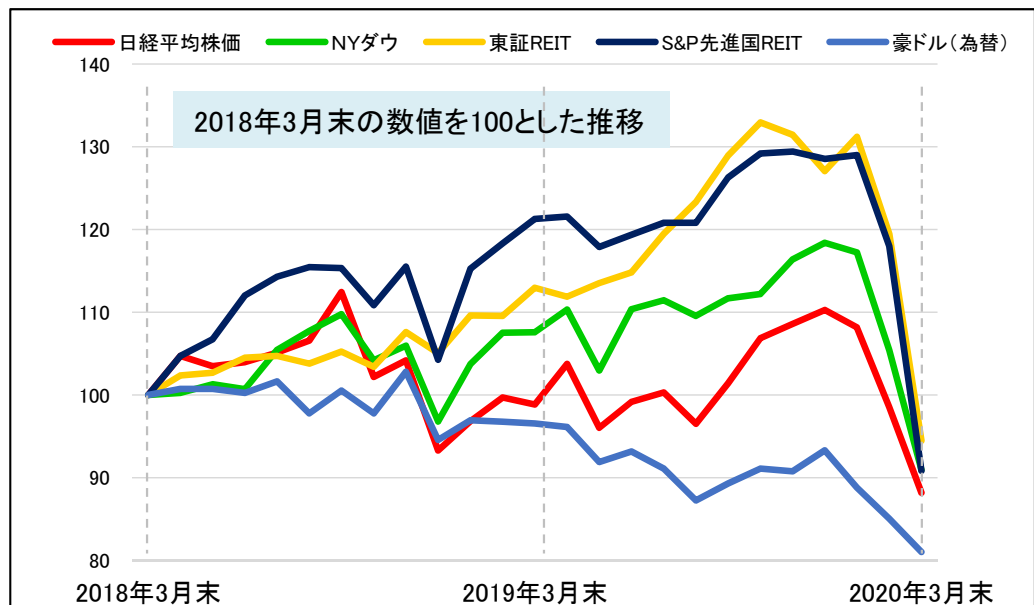


(注)1. 2018年、2019年、2020年3月末時点で投資信託残高を保有している個人運用損益別顧客比率計算上の分母は時価評価額

(参考)市場動向及び運用損益プラス先の推移等

	2018年3月末	2019年3月末	2020年3月末	前年同月比
日経平均株価	21,454	21,206	18,917	▲10.8%
NYダウ	24,103	25,929	21,917	▲15.5%
東証REIT	1,689	1,907	1,595	▲16.4%
S&P先進国REIT	875	1,061	794	▲25.1%
豪ドル(為替)	82	79	66	▲16.1%

運用損益プラス	47.9%	61.0%	25.5%	▲35.5%
---------	-------	-------	-------	--------



【投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI】

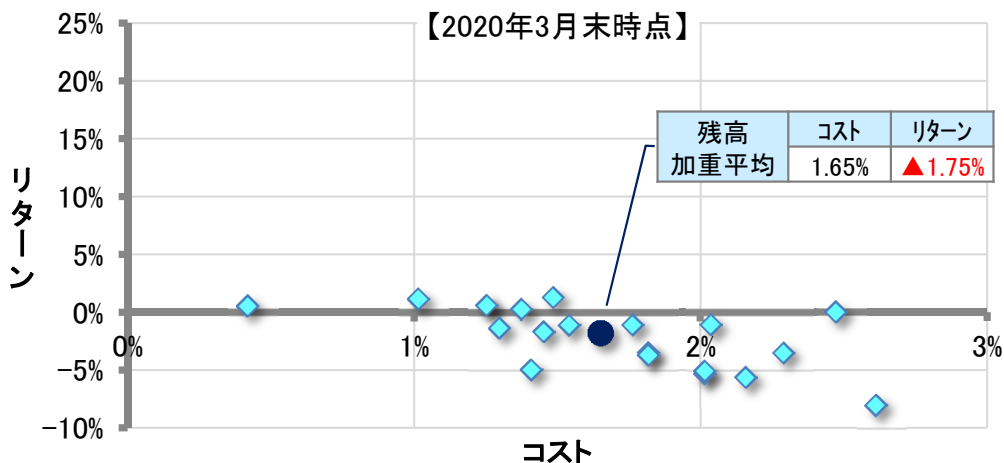
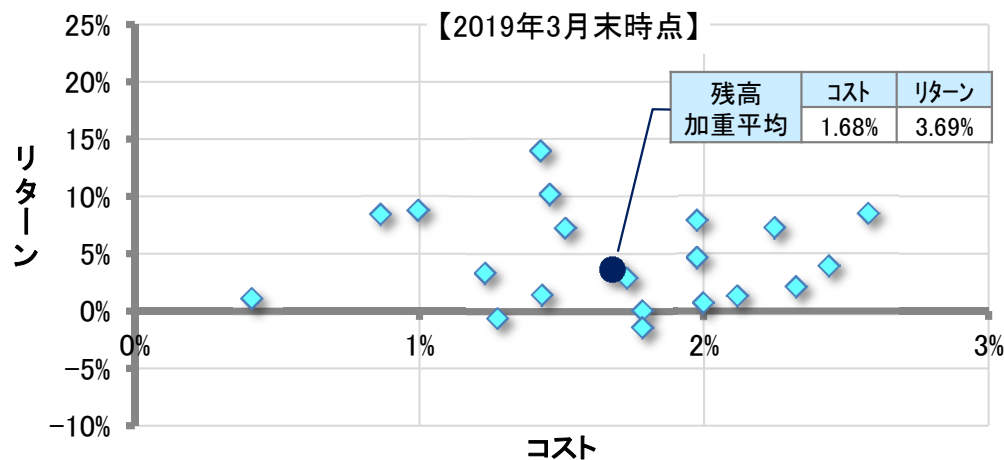
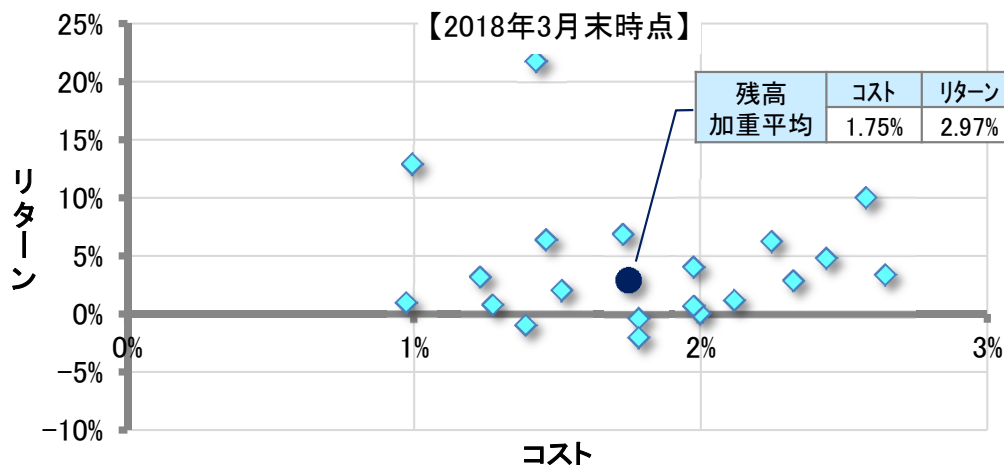
(4)お客さまの運用成果に関する指標

- お客さまにご購入いただいた投資信託の残高上位20銘柄について、コストやリスクに対するリターンをお示しております。
【図9】【図10】
- なお、ひろぎんグループは、広島銀行とひろぎん証券が連携して、お客さまの多様なニーズにお応えしていく体制を構築しております。

【グループにおける商品ラインナップの棲み分け】

	広島銀行	ひろぎん証券
積極運用型商品 (高) リスク/リターン	ネット専用投信・積立専用投信 については品揃えあり	株式、外国債券、仕組債、 テーマ型投信 等
安定運用型商品 (低) リスク/リターン	円貨預金、公共債、 外貨預金、積立投信、 低リスク型投信、保険 等	低リスク型投信等についても 品揃えあり

【図9】投資信託の預り残高上位20銘柄²のコスト・リターン³ [共通KPI]



預り残高上位20銘柄(2020年3月末時点)

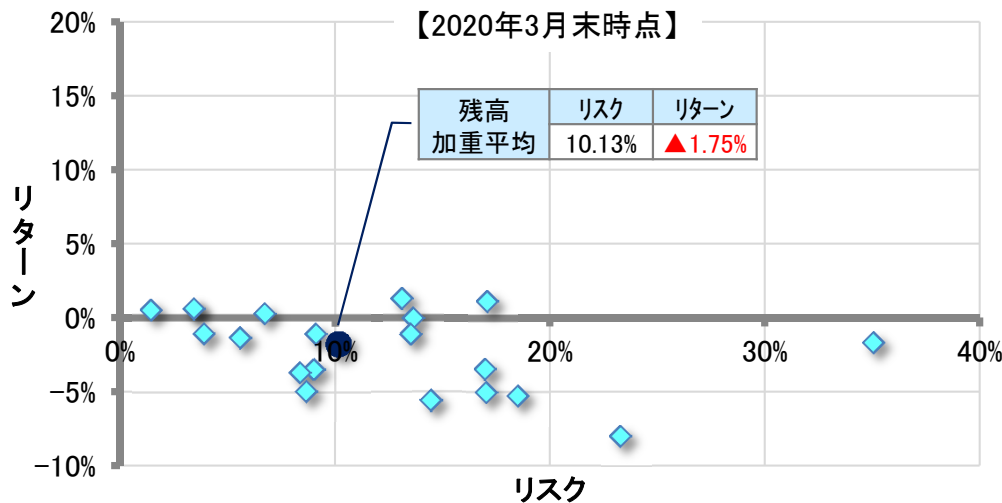
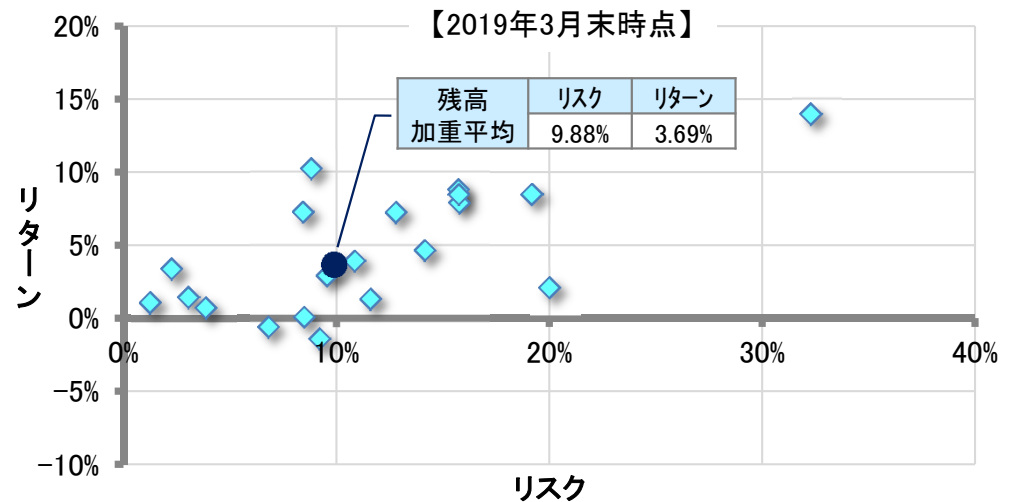
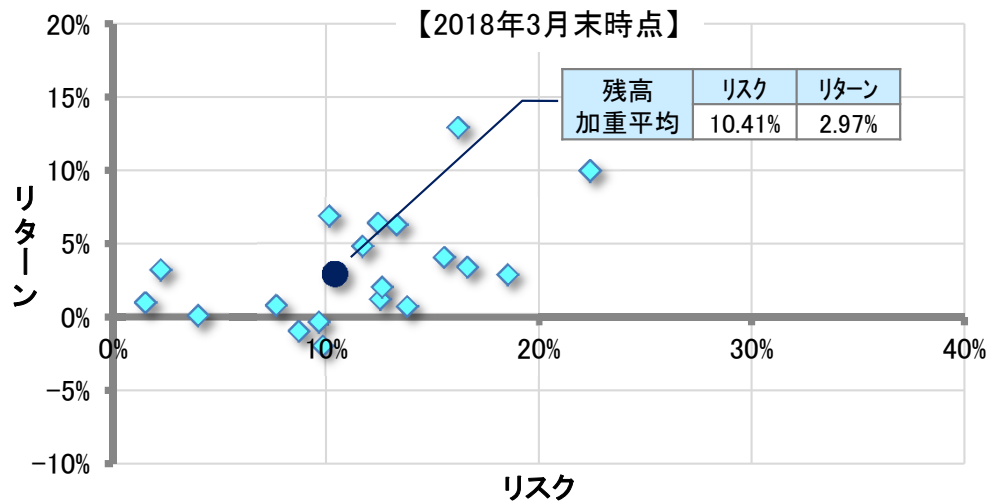
順位	ファンド名	コスト	リターン	順位	ファンド名	コスト	リターン
①	東京海上・円資産バランスファンド(毎月)	1.25%	0.62%	⑪	ダイワ日本国債ファンド	0.42%	0.53%
②	LM・オーストラリア毎月分配型ファンド	1.82%	-3.46%	⑫	ハイパー・ウェブ	1.45%	-1.66%
③	ニッセイオーストラリア利回り資産	2.16%	-5.58%	⑬	パインブリッジ世界国債インカム	1.30%	-1.33%
④	LM・グローバル・プラス	1.76%	-1.07%	⑭	フィデリティ・リート・アクティブ・F	1.49%	1.30%
⑤	GS 米国REITファンド Bコース	2.01%	-5.25%	⑮	DIAM J-REITアクティブファンド	1.54%	-1.08%
⑥	BAMワールド・ホンド&カレンシーF	2.04%	-1.06%	⑯	DIAMワールドリートアクティブファンド	2.29%	-3.47%
⑦	日興インテックスファンド225	1.01%	1.13%	⑰	イーストブリッジ・インド株式オープン	2.61%	-8.01%
⑧	ピクテグローバルインカム株式F	2.47%	0.00%	⑱	三菱UFJ米国債券インカムオープン	1.38%	0.30%
⑨	ダイワ高格付カガドル債オープン	1.82%	-3.66%	⑲	GS 米国REITファンド Aコース	2.01%	-5.03%
⑩	東京海上・円資産バランスファンド(年1回)	1.25%	0.62%	⑳	世界のサイフ	1.41%	-4.93%

(注)2. 2018年3月末時点、2019年3月末時点、2020年3月末時点で、設定期間5年を超えるファンドのみに限った投資信託の預り残高上位20銘柄

(注)3. コスト: 販売手数料/5+信託報酬率、リターン: 過去5年間のトータルリターン(年率換算)

【投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI】

【図10】投資信託の預り残高上位20銘柄²のリスク・リターン³ [共通KPI]



預り残高上位20銘柄 (2020年3月末時点)

	ファンド名	リスク	リターン		ファンド名	リスク	リターン
①	東京海上・円資産バランスファンド [*] (毎月)	3.44%	0.62%	⑪	ダイワ日本国債ファンド [*]	1.46%	0.53%
②	LM・オーストラリア毎月分配型ファンド [*]	8.98%	-3.46%	⑫	ハイパー・ウェイク [*]	35.05%	-1.66%
③	ニッセイオーストラリア利回り資産	14.48%	-5.58%	⑬	パインブリッジ世界国債インカム	5.57%	-1.33%
④	LM・グローバル・プラス	9.07%	-1.07%	⑭	フイテリテイ・リート・アクティブ・F	13.10%	1.30%
⑤	GS 米国REITファンド Bコース	18.48%	-5.25%	⑮	DIAM J-REITアクティブファンド [*]	13.51%	-1.08%
⑥	BAMワールド・ホンド&カレンソフ	3.90%	-1.06%	⑯	DIAMワールドリートアクティブファンド [*]	16.97%	-3.47%
⑦	日興インテックスファンド225	17.09%	1.13%	⑰	イーストスプリング・インド株式オープン	23.27%	-8.01%
⑧	ピクテグローバルインカム株式F	13.62%	0.00%	⑱	三菱UFJ米国債券インカムオープン	6.71%	0.30%
⑨	ダイワ高格付かがたドル債オープン	8.34%	-3.66%	⑲	GS 米国REITファンド Aコース	17.02%	-5.03%
⑩	東京海上・円資産バランスファンド [*] (年1回)	3.44%	0.62%	⑳	世界のサイフ	8.63%	-4.93%

(注)2. 2018年3月末時点、2019年3月末時点、2020年3月末時点で、設定期間5年を超えるファンドのみに限った投資信託の預り残高上位20銘柄

(注)3. リスク: 過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算)、リターン: 過去5年間のトータルリターン(年率換算)

(5) お客さま基盤の拡充

■ 投信残高の減少を主因とし、金融商品残高は横ばいであるものの、お客さま本位の業務運営を実践することにより、金融商品保有者数は増加しております。【図11】

【図11】金融商品保有者数・残高

